

勉誠社

中古文学会 会員様対象 特別割引のご案内

全品**20%OFF**

割引クーポンコード: 019834288e
(期限: ~2025年5月末日)

謹啓

日頃より、弊社をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。
さて、この度、会員様対象の特別割引セールを行うことになりました。
当リストの新刊・近刊書籍をはじめ、勉誠社タイトル全品が対象となります。
この機会にぜひともご購入をご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

●ご注文について

- ・弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

<https://bensei.jp>

各種クレジットカード、paypal(クレジットカード・デビットカード)でのご決済が可能です。
ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード:019834288e (期限:~2025年5月末日)

こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください！

未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

- ・メール添付、FAX、電話でもお受けしております。
ご氏名・ご住所・電話番号・公費／私費の区別・公費の場合は必要書類・宛名・日付の有無をお知らせください。
- ・送料
6,000 円（税込）未満の購入 → 送料 600 円
6,000 円（税込）以上の購入 → 送料無料
(※海外への配送に関しては、実費を頂戴します)

＊ウェブサイト以外の方法によるご注文の際は、
中古文学会の会員であることをお知らせください。



●ご連絡先

Mail info@bensei.jp

電話 03-5215-9021

FAX 03-5215-9025

【勉誠社】研究書 近刊・新刊書籍リスト

2024～2025年刊行分

書名		著者名	刊行年月	ISBN	定価（税込）	割引価格	注文数
■事典・総記■							
	書物学 第27巻 近代製本の100年―明治・大正・昭和	編集部 編	2025/04	30727-3	2,200	1,800	
	書物学 第26巻 古筆見の仕事―真偽の先にあるもの	編集部 編	2025/02	30726-6	2,200	1,800	
	書物学 第25巻 古典籍の文献学―鶴見大学図書館の蒐書を巡る	編集部 編	2024/04	30725-9	2,200	1,800	
	世界の絵本・作家 総覧	O.L.V.（おおぶ文化交流の杜図書館ボランティアグループ）・おおぶ文化交流の杜図書館 編	2024/06	30013-7	22,000	17,600	
	アーカイブズ学入門	国文学研究資料館 編	2024/07	30012-0	3,080	2,500	
■古典文学・文学史■							
近刊	杜甫研究年報 第八号	日本杜甫学会 編	2025/04	39448-8	2,200	1,800	
	〈絵語り〉の日本中世	井上泰 著	2025/03	37013-0	9,900	7,900	
	和漢韻文文学の諸相	村上哲見 著／浅見洋二・松尾肇子 編	2025/03	39049-7	13,200	10,600	
	本歌取り表現論考	小山順子 著	2025/03	39050-3	12,100	9,700	
	水門 第三十二号	水門の会 編	2025/03	32463-8	3,850	3,100	
	孝謙天皇・称徳天皇御伝	米田達郎・米田雄介 編著	2025/01	32061-6	7,150	5,700	
	日本人の読書 新装版―古代・中世の学問を探る	佐藤道生 著	2025/01	39047-3	11,000	8,800	
	新装版 数と易の中国思想史―術数学とは何か	川原秀城 著	2024/12	81045-2	7,700	6,200	
	正訳 源氏物語 本文対照 第一冊（オンデマンド版） 桐壺／帚木／空蝉／夕顔／若紫	中野幸一 訳	2024/12	89571-8	2,750	2,200	
	増補改訂版 明恵上人夢記 訳注	奥田勲・平野多恵・前川健一 編	2024/11	31019-8	8,800	7,000	
	清少納言伝―中宮定子讃仰と鎮魂の生涯	上原作和 著	2024/11	39046-6	5,940	4,800	
	鎌倉幕府の文学論は成立可能か!?―真名本『曾我物語』テキスト論	神田龍身 著	2024/10	39045-9	4,180	3,300	
	日本人にとって教養とはなにか―〈和〉〈漢〉〈洋〉の文化史	鈴木健一 著	2024/10	39044-2	3,850	3,100	
	日本古典文学と中国の古伝承―物語形成の比較文学的考察	三木雅博 著	2024/09	39042-8	11,000	8,800	
	平安朝詩文論集	後藤昭雄 著	2024/09	39043-5	13,200	10,600	
	新装版 正訳 紫式部日記 本文対照	中野幸一 訳	2024/05	39041-1	2,420	1,900	
	ラテンアメリカ文学の出版文化史 ―作家・出版社・文芸雑誌と国際的文学ネットワークの形成	寺尾隆吉 編著	2024/05	39040-4	6,050	4,800	
	中国古典戯曲演劇論	岡晴夫 著	2024/04	37015-4	16500	13,200	
	球陽外巻 遺老説伝	前村佳幸 校注	2024/04	32048-7	8800	7,000	
	杜甫研究年報 第七号	日本杜甫学会 編	2024/04	39447-1	2200	1,800	
	水門 第三十一号	水門の会 編	2024/03	32462-1	3850	3,100	
	川端康成の曖昧な声―日本語の小説における文体と身体の交点	平井裕香 著	2024/03	39038-1	6,600	5,300	
	本 かたちと文化―古典籍・近代文献の見方・楽しみ方	国文学研究資料館 編	2024/02	30011-3	3,080	2,500	
	本 かたちと文化（電子版）―古典籍・近代文献の見方・楽しみ方	国文学研究資料館 編	2024/02	70011-1	3080	2,500	
	歴史叙述としての平家物語	塩山貴奈 著	2024/02	39037-4	8800	7,000	
■歴史・文化財・美術史・思想史■							
近刊	増補改訂版 道教美術の可能性	齋藤龍一・鈴木健郎・土屋昌明 編	2025/04	37019-2	3,300	2,600	
近刊	宋代士大夫官僚の基層社会と構造	伊原弘 著	2025/04	32049-4	13,200	10,600	
	中国の女性演劇―越劇とジェンダー	中山文 著	2025/03	37018-5	8,250	6,600	
	新装版 武蔵武士を歩く―重忠・直実のふるさと 埼玉の史跡	北条氏研究会 編	2025/03	32062-3	2,970	2,400	
	武蔵武士を巡る―東京・神奈川の史跡と伝説	北条氏研究会 編	2025/03	32055-5	4,180	3,300	
	茶の湯の文化史	五味文彦 著	2025/03	32060-9	2,640	2,100	
	貸本問屋と貸本文化―娯楽的書籍の出版・流通・受容	松永瑠成 著	2025/03	32063-0	11,000	8,800	
	道教文化と日本―陰陽道・神道・修験道	日本道教学会 編	2025/03	31020-4	4,180	3,300	
	江戸庶民の読書と学び 増補改訂版	長友千代治 著	2025/02	32065-4	5,280	4,200	
	古文書研究 第98号	日本古文書学会 編	2025/01	32408-9	4,180	3,300	
	地方史誌から世界を読む―地方史誌から世界を読む	小二田章 編	2025/01	32064-7	8,800	7,000	
	古文書研究 第98号	日本古文書学会 編	2024/12	32408-9	4,180	3,300	
	帝鑑図と帝鑑図説―日本における勸戒画の受容	小助川元太・薬師寺君子・野田麻美・水野裕史 編	2024/11	37017-8	16,500	13,200	
	武蔵武士を巡る―東京・神奈川の史跡と伝説	北条氏研究会 編	2024/12	32055-5	4,180	3,300	
	増補改訂版 明恵上人夢記 訳注	奥田勲・平野多恵・前川健一 編	2024/10	31019-8	8,800	7,000	
	近世日本邪正論―江戸時代の秩序維持とキリシタン・隠れ／隠し念仏	大橋幸泰 著	2024/11	32058-6	11,000	8,800	
	看聞日記とその時代―好奇心旺盛な皇族・伏見宮貞成が語る中世社会	園部寿樹 著	2024/10	32059-3	4,620	3,700	
	荘園制再編と中世日本	小川弘和 著	2024/10	32057-9	8,800	7,000	
	源氏絵研究の最前線	稲本万里子 編著	2024/10	37016-1	14,300	11,400	
	織田信長文書の世界―永青文庫 珠玉の六〇通	公益財団法人永青文庫・熊本大学 永青文庫研究センター 編	2024/09	32054-8	3,080	2,500	
	増補改訂版 東インド会社とアジアの海賊	東洋文庫・斯波義信・平野健一郎・羽田正 監修／牧野元紀 編	2024/09	32056-2	3,520	2,800	
	醍醐寺文化財研究所研究紀要 第24号	醍醐寺文化財研究所 編	2024/09	31302-1	2,750	2,200	
	都市鎌倉の展開と鶴岡八幡宮の社人集団	佐藤博信 著	2024/09	32050-0	8,800	7,000	
	日本中世史論集	森茂暁 著	2024/09	32053-1	13200	10,600	
	料理の日本史	五味文彦 著	2024/09	32045-6	2640	2,100	
	ハナシ語りの民俗誌	川島秀一 著	2024/08	33006-6	3520	2,800	

	開かれていた鎖国一入り船と出船	片桐一男 著	2024/08	32046-3	8800	7,000	
	新装版 日本建築の歴史的評価とその保存	山岸常人 著	2024/08	32052-4	18700	15,000	
	教育勅語―少年昭和天皇への進講録	杉浦重剛 著／所功 解説	2024/07	32051-7	1320	1,100	
	広益体 妖怪普及史	伊藤慎吾・氷厘亭氷泉・式水下流・永島大輝・幕張本郷猛・御田鉄・毛利恵太 著	2024/07	32040-1	3,520	2,800	
	古文書研究 第97号	日本古文書学会 編	2024/06	32407-2	4,180	3,300	
	和紙を科学する 製紙技術・繊維分析・文化財修復	大川昭典 著	2024/06	35002-6	4,620	3,700	
	近世長崎渡来人文運史 言語接触と文化交流の諸相	若木太一 著	2024/06	32044-9	14,300	11,400	
	永平廣録 大全―『祖山本 永平廣録』訓読・訳註・補注参究ならびに解題・関連資料集成	大谷哲夫 著	2024/06	31017	71,500	57,200	
	増補改訂版 室町時代の将軍家と天皇家	石原比伊呂 著	2024/05	32047-0	9,900	7,900	
	戦後出版文化史のなかのkastori雑誌	石川巧 編集代表／kastori雑誌編集委員会 編	2024/05	39039-8	3,080	2,500	
	増補改訂版 図像学入門―疑問符で読む日本美術	山本陽子 著	2024/04	37014-7	2640	2,100	
	古文書修復講座―歴史資料の継承のために	神奈川大学日本常民文化研究所 監修／関口博巨 編	2024/03	32035-7	4180	3,300	
	三井大坂両替店の顧客信用情報―享保一七年から明治二年まで	萬代悠 編	2024/03	32042-5	16500	13,200	
	「見える」ものや「見えない」ものをあらわす―東アジアの思想・文物・藝術	外村中・稲本泰生 編	2024/03	37012-3	15400	12,300	
	湖北省留日学生と明治日本	王鼎 著	2024/03	32043-2	7700	6,200	
	器と信仰―東アジアの舍利莊嚴をめぐる美術史・考古学からのアプローチ	加島勝 編	2024/03	32041-8	16500	13,200	
	彰義隊士の手紙―続『新彰義隊戦史』	大藏八郎 著	2024/03	32036-4	22000	17,600	
	日本近世史入門―ようこそ研究の世界へ！【重版出来！】	上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美 編	2024/02	32034-0	4,180	3,300	
	コレクションと歴史意識―十九世紀日本のメディア受容と「好古家」のまなざし	古畑侑亮 著	2024/02	32038-8	11,000	8,800	
	近世後期の海防と社会変容	清水詩織 著	2024/02	32037-1	11,000	8,800	
	朝鮮時代ソウル都市史	高東煥 著／野崎充彦・金子祐樹 訳	2024/02	32039-5	9900	7,900	
	泰山諸神の信仰の展開―東岳大帝から碧霞元君へ	二ノ宮聡 著	2024/01	31018-1	8,800	7,000	
■ 日本語学・言語学 ■							
	日本人は漢文をどう読んだか―直読から訓読へ	湯沢質幸 著	2024/05	38006-1	3520	2,800	
	論究日本近代語 第3集	日本近代語研究会 編	2024/04	38523-3	16500	13,200	
	楷書の秘密―「字様」が発見されるまで	西原一幸 著	2024/02	38005-4	4,180	3,300	
■ 〈アジア遊学〉 ■							
	302 アク・バシム遺跡を掘る―よみがえるシルクロードの交易都市	山内和也・齊藤茂雄 編	45748	32548-2	3,520	2,800	
	301 描かれた法華経―本法寺蔵「法華経曼荼羅図」の時空	原口志津子 編	2025/03	32547-5	3,300	2,600	
	300 性なる仏教	大谷由香 編	2025/01	32546-8	3,080	2,500	
	299 近代日本の中国学―その光と影	朱琳・渡辺健哉 編著	2024/12	32545-1	3,850	3,100	
	298 無住道暁の拓く鎌倉時代―中世兼学僧の思想と空間	土屋有里子 編	2024/10	32544-4	3,080	2,500	
	297 廃墟の文化史	木下華子・山本聡美・渡邊裕美子 編	2024/10	32543-7	3,300	2,600	
	296 天文文化学の視点―星を軸に文化を語る	松浦清・真貝寿明 編	2024/10	32542-0	3,850	3,100	
	295 蘇州版画―東アジア印刷芸術の革新と東西交流	青木隆幸・板倉聖哲・小林宏光 編	2024/09	32541-3	3,520	2,800	
	294 秀吉の天下統一 ―奥羽再仕置	江田郁夫 編	2024/06	32540-6	3,520	2,800	
	293 彷徨する宗教性と国民諸文化―近代化する日独社会における神話・宗教の諸相	前田良三 編	2024/02	32539-0	3,300	2,600	
■ 図書館学・アーカイブ ■							
	学校図書館概論	金沢みどり・雪嶋宏一 監修／雪嶋宏一・須永和之 編著	45778	30402-9	2,750	2,200	
	デジタルデータの長期保存・活用―その理論と実践	嘉村哲郎 責任編集	2025/03	30305-3	4,620	3,700	
	デジタル時代のコレクション論（デジタルアーカイブ・ベーシックス）	中村寛・逢坂裕紀子 責任編集	2024/10	30304-6	3,850	3,100	
	図書館員をめざす人へ 増補改訂版	後藤敏行 著	2024/10	30014-4	2,640	2,100	
2023年以前 おすすめ書籍							
	物語る仏教絵画―童子・死・聖地	山本陽子 著	2023/10	37011-6	11,000	8,800	
	紙のレンズがひらく古典籍・絵画の世界	江南和幸・佐藤悟・横井孝（新コディコロジー研究会） 編	2023/11	39036-7	4,950	4,000	
	国宝「三十帖冊子」 修理から見てきたもの	総本山仁和寺 監修／宇都宮啓吾 編	2023/12	31012-9	13,200	10,600	
	増補改訂 江戸の異性装者たち―セクシュアルマイノリティの理解のために	長島淳子 著	2023/12	32033-3	3,520	2,800	
	古文書研究 第96号	日本古文書学会 編	2023/12	32406-5	4,180	3,300	
	本朝麗藻詳注	柳澤良一 著	2023/11	39030-5	30,800	24,600	
	東アジアの王宮・王都と仏教	堀裕・三上喜孝・吉田歓 編	2023/10	32032-6	13,200	10,600	
	江戸時代初期出版年表〔天正十九年～明暦四年〕（オンデマンド版）	岡雅彦・市古夏生・大橋正叔・岡本勝・落合博志・雲英末雄・鈴木俊幸・堀川貴司・柳沢昌紀・和田恭幸 編	2023/10	80452-9	27,500	22,000	
	重要文化財 東福寺五百羅漢図 修理と研究	石川登志雄 編	2023/10	37010-9	24,200	19,400	
	日本人の読書―古代・中世の学問を語る	佐藤道生 著	2023/09	39033-6	13,200	10,600	
	野村太郎の狂言入門	野村太郎・杉山和也 著	2023/07	37005-5	3,080	2,500	
	霊峰の文化史―世界遺産・富士山と世界の山岳信仰	秋道智彌 著	2023/05	33005-9	3,520	2,800	

	輞川図と蘭亭曲水図—イメージとテキストの交響	野田麻美・静岡県立美術館 編	2023/05	37009-3	10,450	8,400	
	モノと権威の東アジア交流史—鑑真から清盛まで	シャルロッテ・フォン・ヴェアシュア 著	2023/04	32022-7	5,280	4,200	
	深草瑞光寺所蔵 元政上人資料集 —近世京洛寺院の学問とネットワーク	岡雅彦・落合博志・桑名法晃・長田和也・ 中前正志・那須陽一郎・原雅子・村木敬子 編	2023/03	31013-6	22,000	17,600	
	黄泉の国との契約書—東アジアの買地券	稲田奈津子・王海燕・榊佳子 編著	2023/03	32030-2	4,180	3,300	
	文と書—中国書字思想の探究	亀澤孝幸 著	2023/03	37008-6	8,800	7,000	
	古代日本の儀礼と音楽・芸能—場の論理から奏楽の脈絡を読む	平間充子 著	2023/02	37006-2	11,000	8,800	
	明治・大正・昭和の時代劇メディアと時代考証	大石学・時代考証学会 編	2023/02	32025-8	3,520	2,800	
	日ソ戦争史の研究	日ソ戦争史研究会 編	2023/02	32026-5	13,200	10,600	
	鎌倉時代禅僧喫茶史料集成	館隆志 著	2023/02	31014-3	14,850	11,900	
	中世醍醐寺と真言密教（オンデマンド版）	藤井雅子 著	2023/01	83170-9	10,780	8,600	
	訂正新版 図説 書誌学—古典籍を学ぶ	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫 編	2023/12	30010-6	3,850	3,100	
	今昔物語集の怪異を読む—巻第二十七「霊鬼」	森正人 著	2023/12	39034-3	5,280	4,200	
	正訳 源氏物語 本文対照 第二冊（オンデマンド版） —未摘花／紅葉賀／花宴／葵／賢木／花散里	中野幸一 訳	2023/12	89572-5	2,750	2,200	
	正訳 源氏物語 本文対照 第三冊（オンデマンド版） —須磨／明石／濡標／蓬生／関屋／絵合／松風	中野幸一 訳	2023/12	89573-2	2,750	2,200	
	中国古典文学に描かれた廁・井戸・簪（オンデマンド版） —民俗学的視点に基づく考察	山崎藍 著	2023/12	89200-7	9,900	7,900	
	紫式部伝—平安王朝百年を見つめた生涯	上原作和 著	2023/10	39035-0	5,940	4,800	
	比較文学で読む十一の出会い—交差する東西のまなざし	英米文化学会 編	2023/08	39032-9	3,080	2,500	
	紫式部集の世界	廣田収・横井孝 編	2023/07	39031-2	10,780	8,600	
	日本と東アジアの〈環境文学〉	小峯和明 編	2023/07	39018-3	16,500	13,200	
	中国古典をどう読むか—規範からの逸脱、規範への回帰	下定雅弘 著	2023/06	39027-5	4,180	3,300	
	深掘り！紫式部と源氏物語	中野幸一 著	2023/04	39010-7	2,640	2,100	
	平安文学の饗宴	中野幸一 編	2023/04	39028-2	16,500	13,200	
	杜甫研究年報 第六号	日本杜甫学会 編	2023/04	39446-4	3,300	2,600	
	俊頼髓脳全注釈	家永香織・小野泰央・鹿野しのぶ・館野文昭・ 福田亮雄 著	2023/03	39025-1	16,500	13,200	
	学習院本「藤袴」（榊原本僚帖）の書誌学的考察	武藤那賀子 著	2023/03	39023-7	16,500	13,200	
	源氏物語歌篋	伊東祐子 著	2023/02	39017-6	7,150	5,700	
	王朝物語論考—物語文学の端境期	横溝博 著	2023/02	39024-4	13,200	10,600	
	宣教師の日本語文学 研究と目録	郭南燕 編著	2023/02	39026-8	12,100	9,700	
	フェイク・スペクトラム—文学における〈嘘〉の諸相	納富信留・明星聖子 編	2023/01	39015-2	3,520	2,800	
	世界神話伝説大事典（オンデマンド版）	篠田知和基・丸山顯徳 編	2023/10	80036-1	27,500	22,000	
	江戸時代前期出版年表〔万治元年～貞享五年〕	岡 雅彦 編	2023/03	32029-6	35,200	28,200	
	292 中国学の近代的展開と日中交渉	陶徳民・吾妻重二・永田知之 編	2023/12	32538-3	3,850	3,100	
	291 五代十国—乱世のむこうの「治」	山根直生 編	2023/12	32537-6	3,520	2,800	
	290 女性の力から歴史をみる—柳田国男「妹の力」論の射程	永池健二 編	2023/11	32536-9	3,300	2,600	
	289 海外の日本中世史研究—「日本史」・自国史・外国史の交差	黄霄龍・堀川康史 編	2023/11	32535-2	3,520	2,800	
	288 東アジアの「孝」の文化史 —前近代の人びとを支えた価値観を読み解く	雋雪艶・黒田彰 編	2023/10	32534-5	3,520	2,800	
	287 書物の時代の宗教—日本近世における神と仏の変遷	岸本覚・曾根原理 編	2023/09	32533-8	3,080	2,500	
	286 近代アジアの文学と翻訳—西洋受容・植民地・日本	波潟剛・西槇偉・林信蔵・藤原まみ 編	2023/08	32532-1	3,300	2,600	
	285 渾沌と革新の明治文化—文学・美術における新旧対立と連続性	井上泰至 編	2023/08	32531-4	3,080	2,500	
	284 近世日本のキリシタンと異文化交流	大橋幸泰 編	2023/07	32530-7	3,080	2,500	
	283 東アジアの後宮	伴瀬明美・稲田奈津子・榊佳子・保科季子 編	2023/06	32529-1	3,520	2,800	
	282 列島の中世地下文書—諏訪・四国山地・肥後	春田直紀 編	2023/05	32528-4	3,300	2,600	
	281 神道の近代—アクチュアリティを問う	伊藤聡・斎藤英喜 編	2023/03	32527-7	3,520	2,800	
	280 都市と宗教の東アジア史	西本昌弘 編	2023/03	32526-0	3,300	2,600	
	279 上海フランス租界への招待—日仏中三か国の文化交流	榎本泰子・森本頼子・藤野志織 編	2023/01	32525-3	3,520	2,800	
	書物学 第24巻 100年くらい前の本づくり—近代日本の製本技術	編集部 編	2023/04	30723-5	2,200	1,800	
	書物学 第23巻 文化財をつなぐひと・もの・わざ —香雪美術館書画コレクションを支える装潢修理の世界	編集部 編	2023/04	30724-2	1,980	1,600	
	書物学 第22巻 禅寺の学問—相国寺・両足院の知の体系	編集部 編	2023/02	30722-8	1,980	1,600	

小山順子〈著〉

(こやま、じゅん) 京都女子大学教授。専門は古典和歌。主な著書・論文に「藤原良経」(笠間書院二〇一二年)、「和歌のアルバム」(藤原俊成・詠む・編む・変える「平凡社」二〇一七年)、「新古今和歌集」における藤原俊成(『中世文学』67、二〇二二年)、「日本文学と鸚鵡」(歌論用語「鸚鵡返し」をめぐる「河添房江・皆川雅樹編」『唐物』とは何か——船載品をめぐる文化形成と交流「アジア遊学」275、勉誠社二〇二二年)などがある。

本歌取り 表現論考

古典たる古歌を自身の歌に摂取し、
新たな和歌を創造する技法、本歌取り。

藤原定家が『近代秀歌』『詠歌大概』において
準則を定めたこの新古今時代を特徴づける和歌表現は、
如何なる歴史的展開の中で萌芽し、展開、定着していったのか。
作者の意図と読者の読解との連関を支える教養・知的基盤の共同性に着目。
既存の作品から表現や発想を借り、自身のものとして再生する営為の展開を、
平安中期のブレ本歌取りのあり方、
一大歌壇を成した藤原良経の詠作における漢詩文摂取、
新古今時代の新たな和歌表現のあり方を示した藤原俊成の物語摂取、
そして、新古今歌人たちが模索した諸種の本歌取り表現のなかにたどり、
本歌取り成立の歴史的意義を明らかにする。

「古きをこひねがふにとりて、
昔の歌の詞を改めずよみするたるを、
即ち本歌とすと申すなり。」(『近代秀歌』)

定価 12,100円・本体11,000円
A5判・上製カバー装・528頁
2025年3月刊行
ISBN978-4-585-39050-3 C3095



序章 例言

本歌取り成立前史

- 第一章 佳句取りと句題和歌
- 第二章 『古今集』時代の〈本歌取り〉
- 第三章 贈答歌と本歌取り——返歌形式の歌合・題詠
- 第四章 『後撰集』時代の〈本歌取り〉
- 第五章 引歌と本歌取り

漢詩文摂取

- 第一章 藤原良経の初学期
- 第二章 藤原良経『六百番歌合』恋歌における漢詩文摂取
- 第三章 藤原良経『西洞隠士百首』の寓意と政治性
- 第四章 「時失へる」の持つ重み
- 補説一 藤原良経『正治初度百首』の漢詩文摂取
- 補説二 「人住まぬ不破の関屋」の小考

物語摂取

- 第一章 藤原俊成自讃歌「夕されば」考
- 第二章 『伊勢物語』と藤原俊成の歌論・実作
- 第三章 「源氏見ざる歌詠みは遺恨の事也」考
- 第四章 「歌語」草の原」と物語的文脈

新古今的表現と本歌取り

- 第一章 本歌取りと時間——藤原良経の建久期の詠作から
- 第二章 本歌の凝縮表現——「後京極殿御自歌合」を中心に
- 第三章 本歌の否定表現——藤原良経『正治初度百首』を中心に
- 第四章 「最勝四天王院障子和歌」の歌枕表現
- 第五章 「主ある詞」と本歌取り

終章

あとがき・初出一覧・索引

書名	冊数
本歌取り表現論考 小山順子〈著〉	冊
定価 12,100円・本体11,000円 A5判・上製カバー装・528頁 2025年3月刊行 ISBN978-4-585-39050-3 C3095	
ご送付先ご住所（通信欄）	

清少納言伝

中宮定子讃仰と鎮魂の生涯

上原作和 [著]

謎多き才女の実像に迫る本格評伝

清少納言はなぜ『枕草子』を書いたのか。

中宮定子への忠誠心とはいかなるものだったのか。

紫式部とは仲が悪かったのか。

多彩な史料・文献を駆使して、幼少時代、恋愛と結婚、宮廷生活、

長徳の変の伊周と高階道順の逃亡への関与、晩年の隠棲地のほか、

『枕草子』の成立と享受について14の新見解を提示し、

その波乱に満ちた生涯と人物像に迫る。

和歌・漢文日記等に読みやすい現代語訳、

専門用語に注記を付した。

14の新見解

・紫式部との関係は険悪というほどではなかったことを確認

・清少納言の家は、同母兄清原致信の住む「六角福小路」にあったと特定

・長徳の変の藤原伊周と高階道順の逃亡に関与していると推定

・多情多恨・奔放な異性関係を持っていたことを指摘…など。

◎著者プロフィール

上原作和（うえはら・さくかず）

一九六二年長野県佐久市生まれ。大東文化大学大学院博士課程単位取得退学。博士（文学）、名古屋大学。現在、桃源文庫理事。明治大学法学部兼任講師。主な研究テーマは文献史学、日本琴學史、物語文学。主著に『光源氏物語の思想的変貌——《琴》のゆくへ——』（有精堂出版、一九九四年）、『光源氏物語學藝史——右書左琴の思想——』（翰林書房、二〇〇六年）、『光源氏物語傳來史』（武蔵野書院、二〇一一年）、『紫式部伝——平安王朝百年を見つめた生涯——』（勉誠社、二〇一三年）、共編著に『人物で読む源氏物語／全二〇巻』（勉誠出版、二〇〇五―二〇〇六年）、『完訳太平記／全四巻』（勉誠出版、二〇〇七年）、『テーマで読む源氏物語——一三巻——』（勉誠出版、二〇〇八年）、『日本琴學史』（勉誠出版、二〇一六年）、『古典文学の常識を疑う』（勉誠出版、二〇一七年）、『古典文学の常識を疑うⅡ』（勉誠出版、二〇一九年）などがある。創設40周年記念中古文学会賞（二〇〇六年）、全国大学国語国文学会賞（二〇〇七年）。

◎目次

はじめに

第一章 なぜ清少納言は『枕草子』を書いたのか

第二章 『枕草子』受容の前近代と近代

第三章 清少納言前史

第四章 中関白家の栄華と長徳の変

第五章 清少納言の家系

第六章 枇杷殿時代——紫式部と対峙する

第七章 清少納言の同母兄・清原致信暗殺事件

第八章 『無名草子』の清少納言伝承と伝能因所持本の成立

第九章 清少納言伝における（つきのわ）

「コラム」 在原業平遠近宮と武蔵野の古典文学

第十章 清少納言の末裔——「小馬がさうし」の読者圏

附篇一 『枕草子絵巻』の世界

附篇二 冷泉家本『清少納言集』訳注

自跋

附録

『清少納言伝』を読むためのふたつの覚書

『清少納言伝』を読むための人物誌

女房一覧

枕草子年表

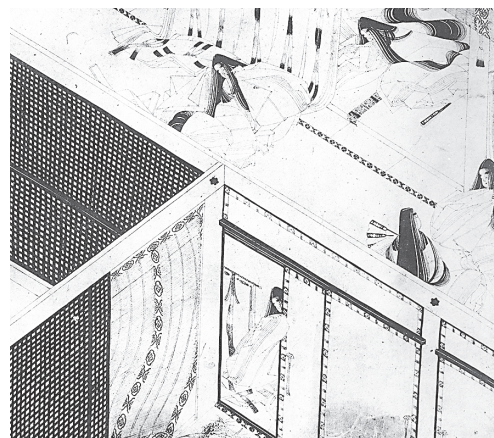
定価五、九四〇円

（本体五、四〇〇円）

二〇二四年十一月刊行

A5判並製カバー装・四二四頁

ISBN978-4-585-39046-6 C1095



書名	部数
清少納言伝 中宮定子讃仰と鎮魂の生涯 上原作和 [著]	部
ご送付先ご住所・氏名（通信欄）	

定価 5,940 円（本体 5,400 円）

A5判・並製カバー装・424頁
ISBN978-4-585-39046-6 C1095
2024年10月刊行

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

稲本万里子

〔編著〕

恵泉女学園大学教授。専門は日本美術史。著書に『源氏絵の系譜——平安時代から現代まで』（森活社、二〇一八）、論文に「幻の『源氏物語絵巻』の制作背景再考」（恵泉女学園大学紀要二九二〇一七）、「若紫巻の源氏絵」（河添房江・松本大編『源氏物語を読むための25章』武蔵野書院、二〇二三）などがある。

源氏絵研究の最前線



『源氏物語』を絵画化した作品である源氏絵は、平安時代から現代に至るまで数多く制作された。

これらは、歴史上、天皇や公家、武家、あるいは寺院の僧侶たちの私的な空間を彩る絵であったため、彼らの生活を知るためには、欠くことのできない作品である。

そして、その制作には土佐派や狩野派などさまざまな流派が関わり、流派を超えた同時代の潮流や、あるいは時代を超えた流派ごとの様式展開を知るための重要な事例でもある。

絵巻や扇、画帖、屏風など、さまざまな形で残されてきた作品を、美術史、建築史、日本文学などの知見より時代別に考察。

さらには、AIやVRなどを駆使した最先端の研究や展示方法に関する最新成果も収載。

日本古典文化の中心にある『源氏物語』の絵画の世界を多角的視点から解剖した必備の一冊。

図版点数三六〇点超！

第二部 AIとVR

第一章…デジタル画像
第二章…AI
第三章…VR

鴨木年泰 Xiaoran Hu
鈴木親彦 津野駿幸
加藤拓也 横田優治
小長谷明彦 小倉絵里子

第一部 源氏絵の諸相

第一章…平安時代
第二章…室町時代
第三章…桃山・江戸時代
第四章…源氏絵の拡がり

四辻秀紀 龍澤 彩 青木慎一
鷺頭 桂 三宅秀和 赤澤真理
片桐弥生 本田光子
高岸 輝 水野裕史

表裏面●詳細目次



定価 14,300円・本体13,000円

A5判上製カバー装・488頁

202410月刊行

ISBN978-4-585-37016-1 C3071

書名

源氏絵研究の最前線

稲本万里子〔編著〕

冊数

定価 14,300円・本体13,000円

A5判上製カバー装・488頁

202410月刊行

ISBN978-4-585-37016-1 C3071

冊

ご送付先ご住所（通信欄）

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

序言◎稲本万里子

第一部 源氏絵の諸相

第一章……平安時代

国宝源氏物語絵巻の保存と修理の過程◎四辻秀紀

第二章……室町時代

集められた扇絵——九州国立博物館所蔵「扇面画帖」の裏面からわかること◎鷺頭 桂

九州国立博物館蔵「扇面画帖」中の源氏絵扇面について——制作年代と筆者の問題を中心に◎片桐弥生

源氏絵の中世から近世へ——ハーバード大学美術館所蔵「源氏物語画帖」と土佐光信の構図◎高岸 輝

十七世紀の源氏物語絵巻に見る源氏絵の諸相◎龍澤 彩

第三章……桃山・江戸時代

永徳期・光信期狩野派の源氏絵への挑戦——皇居三の丸尚蔵館所蔵の源氏物語図屏風を中心に◎三宅秀和

東京富士美術館所蔵の源氏物語図屏風について——狩野光信様式の源氏絵として◎三宅秀和

土佐光則筆「源氏物語画帖」(任天堂株式会社蔵)の特色と位置づけ——場面選択と図様からの検討◎片桐弥生

土佐光起の源氏絵図様——正当性と新規性◎本田光子

伝土佐光起「土佐派色紙絵付源氏物語」(永青文庫蔵)◎水野裕史

土佐派系工房による二つの源氏絵——「源氏物語画帖」(長崎・個人蔵)と「源氏物語図屏画帖」(国文学研究資料館蔵)◎本田光子

第四章……源氏絵の拡がり

源氏絵の鷹狩描写から鷹狩図へ——小品画から大画面への転換◎水野裕史

幻の「源氏物語絵巻」の詞書本文について——賢木第一巻の検討から◎青木慎一

建築史の中の「源氏物語」——同時代の住宅像と考証学のあいだ◎赤澤真理

近世源氏物語絵が描こうとした王朝の世界——住吉具慶筆「源氏物語絵巻」(MIHO MUSEUM蔵)にみる貴族住宅・洛外・遊興の表現を通して◎赤澤真理

楽奏の場としての平安建築——「うつほ物語」源氏物語」に示された御遊の空間構成◎赤澤真理

第二部 AIとVR

第一章……デジタル画像

公開と非公開の狭間、作品画像のオープン化をめぐる諸課題と最新動向——ジャパンサーチの活用によって期待される新しい展開◎鴨木年泰

III-Curation Platformが美術史にもたらす「細部」と「再現性」——絵入本・絵巻の作品比較を事例に◎鈴木親彦

第二章……AI

深層学習による幻の「源氏物語絵巻」の流派推定に関する考察——AI技術による「絵師の流派」概念の再構築◎稲本万里子・加藤拓也・小長谷明彦

流派推定の思考回路——深層学習による幻の「源氏物語絵巻」と岩佐派の源氏絵の分類結果を手がかりに◎稲本万里子

深層学習によるくずし字の認識——「源氏物語絵巻」桐壺巻の詞書への検証◎小長谷明彦・Xiaoran Hu・稲本万里子

第三章……VR

東京富士美術館が取り組んでいたデジタル鑑賞ツール事例紹介——みどころルーペ、名画ナビゲーション・システム、VR鹿秋草蒔絵硯箱、VR源氏物語図屏風◎鴨木年泰

灯明の炎と金箔の反射を再現する「VR源氏物語図屏風」の美術展示作品としての価値創造に関する考察◎小長谷明彦・津野駿幸・稲本万里子

『源氏物語』の世界のVR化——VR球面上での遠近表現における樹木と金雲の有用性について◎小長谷明彦・横田優治・稲本万里子

源氏絵データベース研究会のあゆみ◎小倉絵里子

あとがき◎稲本万里子

初出一覧

「カラー口絵に掲載した源氏絵」

- 1 徳川美術館蔵「源氏物語絵巻」(柏木三)
- 2 九州国立博物館蔵「扇面画帖」(楊弓図)
- 3 九州国立博物館蔵「扇面画帖」(紅梅・若菜下)
- 4 ハーバード大学美術館蔵「源氏物語画帖」(玉臺)
- 5 ハーバード大学美術館蔵「源氏物語画帖」(滯標)
- 6 毛利博物館蔵「源氏物語絵巻」(御法)
- 7 東京富士美術館蔵「源氏物語図屏風」(桐壺・胡蝶)
- 8 永青文庫蔵「土佐派色紙絵付源氏物語」(桐壺・末摘花)
- 9 個人蔵「源氏物語画帖」(帚木)
- 10 国文学研究資料館蔵「源氏物語図屏画帖」(東屋)
- 11 メトロポリタン美術館蔵「源氏物語絵巻」(賢木)

米田達郎・米田雄介 [編]

孝謙天皇・称徳天皇御伝

こうけんてんのう・しょうとくてんのうぎよでん

聖武天皇と光明皇后を両親とし、史上6人目の女性天皇であった孝謙天皇(重祚して称徳天皇)。その治世下は必ずしも安定していたとは言えず、宇佐八幡宮事件、道鏡との関係などで取りざたされることが多いが、その一方で仏教に対する信仰が篤かったこと、男性のみならず女性も登用する人事を行ったことなど、特筆すべき事績が数多く残されている。『続日本紀』に記載されている記事を中心に、『扶桑略記』『諸寺略記』『東大寺要録』『寧楽遺文』『万葉集』など諸種の資料も博搜し、原文と書き下し文を付して編年体にて収録。研究の基盤を提供する。

[目次]

口絵

はじめに

凡・例

孝謙天皇御伝(在位…天平勝宝元年七月二日〜天平宝字二年八月一日)

称徳天皇御伝(在位…天平宝字八年十月九日〜神護景雲四年八月四日)

孝謙天皇・称徳天皇略年譜

おわりに

[編者プロフィール]

米田達郎(よねだ・たつろう)

大阪工業大学工学部教授。専門は日本語学。主な著書・論文に、『鸛流狂言詞章保教本を中心とした狂言詞章の日本語学的研究』(武蔵野書院、二〇一〇年)、『『遊星』から『惑星』へ——明治時代以降を中心に』(『近代語研究』第29集、武蔵野書院、二〇二三年)、『天文用語「自転」の語史——江戸時代末・明治時代を中心に』(『国語と国文学』6月号、二〇二四年)、『「軌道」の語史——江戸時代末以降を中心に』(松浦清・真貝寿明編『天文文化の視点——星を軸に文化を語る』アジアド学、勉誠社、二〇二四年)などがある。

米田雄介(よねだ・ゆうすけ)

宮内庁書陵部編修課長・正倉院事務所長を歴任。公益財団法人古代学協会理事(文学博士)、県立広島女子大学・神戸女子大学名誉教授。専門は日本古代史。二〇二四年没。主な著書に、『すぐわかる正倉院の美術』(東京美術、二〇〇二年)、『奇蹟の正倉院宝物——シルクロードの終着駅』(角川選書、二〇一〇年)、『光明皇后御傳——改訂増補版』(吉川弘文館、二〇二〇年)などがある。

定価 7,150 円
(本体 6,500 円)A5判並製カバー装・290頁
ISBN 978-4-585-32061-6 C3021
2025年1月刊行

書名	部数
孝謙天皇・称徳天皇御伝	定価7,150円(本体6,500円) A5判並製カバー装・290頁 ISBN 978-4-585-32061-6 C3021 2025年1月刊行
米田達郎・米田雄介 [編]	部
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

描かれた法華経

原口志津子「編」

アジア遊学 301

定価 3,300 円
(本体 3,000 円)A5判並製カバー装
232頁(口絵8頁+本文224頁)
ISBN 978-4-585-32547-5 C1315
2025年3月刊行

富山本法寺に伝わる重要文化財「法華経曼荼羅図」は二十二幅一具という規模を有する。その内容は法華経の経文や注釈書に基づく場面ばかりではなく、説経や説話に基づく図像も含み、十四世紀の心性や文化を今に伝える貴重資料である。豊富な画像情報には、建築や仏像・仏画を制作する場面や法要、舞楽のほか、牛耕、田植え、稲刈り、製油、製薬、鍼灸、風呂・湯屋、鉦脈ダウジング、井戸掘り、商売、物見遊山、草履作りなどの風俗描写が含まれており、「二遍聖絵」に匹敵する鎌倉時代末期の絵画資料として、近年諸分野からの注目を集めている。本書では、美術史研究のみならず、国文学や歴史学の視点より本法寺本を多角的に考究。その所蔵流転を明らかにし、鎌倉時代末期の律僧の活動として、本法寺本を位置づけ、さらには本法寺本に描かれた説話内容を通じて学僧の世界と在俗者の交流実態を明らかにする。

【目次】

刊行に寄せて◎原口志津子

Ⅰ 本法寺本の伝来・史的位置づけ

明応の政変と本法寺蔵「法華経曼荼羅図」◎松山充宏
足利義材と五山派禪宗寺院の人事◎高島 廉

Ⅱ 本法寺本の美術史的位置づけ

本法寺蔵「法華経曼荼羅図」に見る浄土のイメージ——宝樹を中心に◎鷹野佳世子
本法寺蔵「法華経曼荼羅図」と版本細字法華経——構図と図様の比較から◎小林知美
中世律宗絵画としての本法寺蔵「法華経曼荼羅図」◎瀬谷 愛
「遍聖絵」にみられる法華経意絵的モチーフについて◎五月女晴恵
本法寺蔵「法華経曼荼羅図」に見る龍女と金翅鳥の図像ほか二、三の問題◎原口志津子

Ⅲ 説話の宝庫としての本法寺本

本法寺蔵「法華経曼荼羅図」における絵画化されるテキストの位相◎本井牧子
本法寺蔵「法華経曼荼羅図」葉草嚙品第五における救済のモチーフ◎小林直樹
本法寺蔵「法華経曼荼羅図」描き起こし図作成レポート◎石崎誠和
編集後記◎原口志津子

【編者プロフィール】

原口志津子(はらぐち・しづこ)

奈良大学文学部教授。
専門は日本中世説話画「法華経絵」。
主な著書に「富山・本法寺蔵法華経
曼荼羅図の研究」(法蔵館、二〇一六
年)、「本法寺蔵法華経曼荼羅図——
法華経をめぐるイメージの世界——
(法蔵館、二〇二四年)、論文に「吹抜
屋台」について——源氏物語絵巻を
中心として」(京都大学大学院文学
研究科編「世界の中の「源氏物語」」、
臨川書店、二〇〇九年)などがある。

書 名	部 数
描かれた法華経 本法寺蔵「法華経曼荼羅図」の時空[アジア遊学301] 原口志津子「編」	部
ご送付先(氏名・住所・電話番号)	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

井上泰〔著〕

《絵語り》の日本中世

絵画に潜む表象主体の行為を探る

絵巻・物語絵などの絵画は、単に画題を絵で「伝達」するメディアではない。そこには制作にかかわる主体の画題への「解釈——表現」行為過程が介在している。その表象行為をめぐって、日本中世にはどのような特質が見られるのか。中世に制作された『信貴山縁起』、極楽寺蔵『六道絵』、『源氏物語絵詞』などを中心に、鑑賞者の解釈を誘発する、その表象の編成と仕組みを分析する。また、教育の場では絵画をどのように扱うことができるのか。実際の教育現場に携わった著者ならではの視点から、定番教材である『竹取物語』や『徒然草』を題材に、古典学習の拡充に向けた絵画の有効的な活用を提案する。

図版130点超
掲載！



〔著者プロフィール〕

井上泰（いのうえ やすし）

福山大学大学院教育センター准教授。専門は、国語科教科内容学で主に日本古典文学。主な論文に「国語科における言語文化学習をどうするか——中学二年生 芥川龍之介『蜘蛛の糸』の授業実践から考える」（『日本文学』72巻2号、日本文学協会、二〇二三年二月）、「兵庫県極楽寺蔵『六道絵』の《絵語り》」（『国文学』第200号、広島大学国語国文学会、二〇〇八年十二月）などがある。

定価 9,900 円
(本体 9,000 円)

A5判上製カバー装・352頁
ISBN 978-4-585-37013-0 C3071
2025年3月刊行

【目次】

序 研究の目的と方法

第一節 研究の目的 第二節 研究の方法

第二章 《絵語り》論序説

第一節 問題の所在／第二節 鑑賞主義的な解釈／第三節 画面構成による絵画の語り／第四節 物語とは直接関係のない絵画表現／第五節 隠喩の文脈／第六節 主題の複層性／第七節 まとめ

第三章 説話画の《絵語り》

第一節 問題の所在／第二節 「信貴山縁起」尼公巻をめぐってと名所絵／第四節 宿をとる尼公／第五節 《絵語り》の位相——観念と実像／第六節 まとめ

第三章 仏教説話画の《絵語り》

第一節 問題の所在／第二節 十王絵相の検討／第三節 六道絵相の検討／第四節 極楽寺蔵『六道絵』の《絵語り》／第五節 まとめ

第四章 物語絵の《絵語り》

第一節 問題の所在／第二節 『源氏物語絵詞』をめぐって（絵語り）と時間／第四節 《絵語り》と心情（人）／第五節 《絵語り》と意味／第六節 まとめ

第五章 教材としての絵画（一）

第一節 問題の所在／第二節 教科書における絵画資料の使用目的／第三節 指導書における絵画資料の使用目的とその検討／第四節 絵画資料の有効的な活用／第五節 中学校の古典学習におけるまとめ／第六節 『源氏物語絵巻』「御法」を用いた活動／第七節 『源氏物語』御法巻の学習の狙い／第八節 絵画資料の有効的な活用の提案／第九節 高等学校の古典学習におけるまとめ／第十節 教材としての絵画

第六章 教材としての絵画（二）

——絵画テキストを活用した実践事例——
第一節 「竹取物語」の挿絵を用いた活動／第二節 活動を通して得られた学習の効果／第三節 「竹取物語絵」学習のまとめ／第四節 「徒然草絵」を用いた活動／第五節 絵画テキストの使用目的／第六節 単元について／第七節 授業構成／第八節 学習者の反応／第九節 「徒然草絵」学習のまとめ

結 研究の総括

第一節 本研究の概要／第二節 日本中世の《絵語り》の諸相／第三節 日本中世の《絵語り》の特質
あとがき
初出一覧／参考文献／索引（事項／人名／書名）

書 名	部 数
《絵語り》の日本中世 井上泰〔著〕	定価9,900円(本体9,000円) A5判上製カバー装・352頁 ISBN978-4-585-37013-0 C3071 2025年3月刊行
ご送付先（氏名・住所・電話番号）	部

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

書物學

26



定価 2,200円・本体 2,000円
B5判並製・120頁
2025年2月刊行
ISBN978-4-585-30726-6 C1000
[書物学・第26巻]

古筆見の仕事 真偽の先に あるもの

Kohitsumi No Shigoto

■特集

序論・身近にある鑑定文化……佐々木孝浩

文化としての古筆鑑定……佐々木孝浩

日本書道史における「鑑定」……金子馨

烏丸光広の鑑定実績……久保木秀夫

古筆家歴代について……中村健太郎

Column 古筆鑑定書の形式と種類……中村健太郎

古筆鑑定文書の「琴山」印について……中村健太郎

古筆本家歴代略歴および極印一覧……中村健太郎

大應寺と古筆了佐……本多潤子

始まりは愛……ウオーリー朗子

本文の仮名字母を用いた

『源氏物語』写本の分類と伝称筆者の関係……齊藤鉄也

■連載

松朋堂新収古書解題・第五回……佐藤道生

西洋古書の遠近法・VOL.13……雪嶋宏一



この筆跡は誰のものなのか。
ホンモノなのかニセモノなのか。
由緒正しきモノなのか。

モノにまつわる世界で常に問われ続ける永遠のテーマである。

この「鑑定」という文化を、江戸時代の始まりより

明治、大正、昭和に至るまで支えてきた人々がいた——古筆見である。

その痕跡は「極付き」「折紙付き」という言葉や、
博物館などでよく目にする「伝○○」という表現に残されており、
今なお我々のモノの見方にも大きな影響を与え続けている。

「古筆見」とその中心であった「古筆家」はいかに成立・展開していったのか。
鑑定書や鑑定印にはどのような種類があるのか。

彼らの鑑定を現代の我々はどのように考えるべきなのか。

古筆家伝来の内部資料、菩提寺に残された資料や文物、

さらには長期にわたる研究・蒐集の成果により、

これまで纏まった記述のなされることのなかった

古筆見・古筆家の営為や文化史的意義を多角的に明らかにする。

書名

古筆見の仕事
真偽の先にあるもの

編集部〈編〉

冊数

定価 2,200円・本体 2,000円

B5判並製・120頁・2025年2月刊行

ISBN978-4-585-30726-6 C1000

[書物学・第26巻]

冊

ご送付先ご住所（通信欄）

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

大谷由香 編

(おたに・ゆか)龍谷大学文学部特任准教授。専門は日本仏教・戒律思想。主な論文に「東アジアにおける「百五十戒の実践」―新出資料・元照撰『撰戒種類図』を通じて―」「木俣元一・近本謙介編『宗教遺産テキストの創成』勉誠出版(二〇二三年)、「通受の背景」(近本謙介編)ことば・ほとけ・図像の交響―法会・儀礼とアーカイヴ・勉誠出版(二〇二三年)、「中世律宗の復興の中の行基」(論集東大寺と行基菩薩・ザ・グレイトブッダシンポジウム論集(二〇二〇年)などがある。

性なる仏教

誰しにも悟りの可能性が開かれることをときに強調し、多様な人格を許容しうるかのように見える仏教。

しかし世俗社会からの支持や支援によって

仏教教団が成り立つからには、

教団もまた性的役割分担をはじめとする

社会的影響を受けざるを得ない。

妻帯が禁止されている僧侶たちは、

「家」を継承するためにどのような方法をとったのか。

仏教を信仰する集団における、

男性の美醜の基準とはどのようなものだったのか。

仏教の中で女性はどういうような役割を負わされ、

どのように理想化されていたのか。

仏教学・歴史学・美術史学など

多様なフィールドの研究者が、女性や性的少数者など、

仏教史上のマイノリティの存在に着眼し、

仏教が想定してきた性のありように迫る。

序文……大谷由香

I 女性が出家すること／女性がさること

東アジアにおける比丘尼受戒譚と三人の尼……大谷由香

仏性と女性……村上明也

II 性の超越と仏教

転変する性……岸田悠里

律蔵に記載される「性転換」した人々

III 理想化される女性像

浄土真宗本願寺派における母親像……小野嶋祥雄

〔Column〕我を抱擁せよ

『華嚴經』の婆須蜜多女をめぐる教理解釈と明恵……野呂靖

IV ルッキズムな仏教

美僧の登場……河上麻由子

玄奘の肖像と玄奘イメージの系譜……大島幸代

〔Column〕僧侶の美醜……大谷由香

V 仏典とともに生きる女性たち

写経と女性……前島信也

VI 僧と家族／僧の家族

〔Column〕墮地獄の諸相……女性の墮地獄と救済……南宏信

僧の女犯・妻帯と清浄性

「僧の家」と女人禁制をめぐる……坪井剛

僧の妻の系譜、坊守の系譜……板敷真純



定価 3,080円・本体2,800円
A5判並製カバー装・208頁
2025年2月刊行
ISBN978-4-585-32546-8 C1315
【アジア遊学 No.300】

書名	冊数
性なる仏教 大谷由香(編)	定価 3,080円・本体2,800円 A5判並製カバー装・208頁 2025年2月刊行 ISBN978-4-585-32546-8 C1315 【アジア遊学 No.300】
ご送付先ご住所(通信欄)	冊

株式会社勉誠社 ※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

道教文化と日本

東王公・西王母・司命・司籙・泰山・雷神・太歳・竈神（庚申信仰）、
墓葬壁画にみえる四神と仙人、神器としての鏡、剣、玉、
民間に流伝した風習や伝説、術数、風水、医薬学…。

古来、日本文化の中に見られる様々な道教的要素。

道教は、いつどのように日本に伝来したのか。

道教の東アジア的広がり、日本にどのような影響をもたらしたのか。

『道教的な要素』は、果たして本当に道教に由来していると言えるのか。

由来や存在形態などに未だ不明な部分が多い、

日本における『道教文化』。

陰陽道、神道、修験道、そして仏教など、

多角的な視点から文化要素の問題を再検討し、

日本における受容のありかたや、

日本文化への影響を解き明かす。



上・中津市本耶馬溪町古羅漢
下・王屋山王母洞

1950年設立。道教並びに広く東洋の民族的宗教・文化に関する諸般の研究を推進し、会員相互の連絡を計ることを目的とする。
<https://www.taotic-research.jp/>

日本道教学会〈編〉

はじめに……土屋昌明

総論

道教とは何か——唐代の道教を中心に……酒井規史
唐の玄宗からみた道教の日本への伝教……土屋昌明

第1部 陰陽道と道教

古代日本と道教——陰陽道成立の前提として……細井浩志
陰陽道の祭祀と道教……山下克明

日本における「盤法」と唐土「雷公式」……西岡芳文
道教の反閉と陰陽道の反閉……松本浩一

【コラム】道教の方術……松本浩一
【座談会】道教と陰陽道の関係をいかに研究するか
……西岡芳文・山下克明・細井浩志・松本浩一／土屋昌明（司会）

第2部 神道と道教

中世神道における道教受容——特に鎌倉時代の両部・伊勢神道書について……伊藤聡
【コラム】神道に残る道教文獻——『老子述義』『北斗經』『修真九轉丹道図』を中心に……松下道信
平安時代の著書について……奈良場勝

【コラム】陰陽五行説と中世神道論……附・『東家秘伝』小考……原克昭
平田篤胤と道教の洞天思想……森瑞枝・土屋昌明

第3部 修験道と道教

道教と山岳信仰・修験道……鈴木正崇
修験道と道教——英彦山修験にみられる道教的要素の分析から……須永敬
山岳修験遺跡に見る道教思想の影響……山本義孝

中国の山岳信仰——名山への巡礼と峰への遊行……土屋昌明

第4部 混淆する道教文化

唐代密教史における道教的要素が存在する経典の成立背景について……岩崎日出男
諸教混淆と中世社会——福神・狐憑き・陰陽師……芳澤元
展望と製戸・解譯の軌跡……中前正志
三教一致説の展開——儒仏道から『先代旧事本紀大成経』の儒仏神へ……石井公成

あとがき／執筆者一覧

定価4,180円・本体3,800円
A5判・並製カバー装・432頁
2025年3月刊行
ISBN978-4-585-31020-4 C1014

陰陽道・
神道・
修験道

書名	冊数
道教文化と日本——陰陽道・神道・修験道 日本道教学会〈編〉	冊
定価4,180円・本体3,800円 A5判・並製カバー装・432頁 2025年3月刊行 ISBN978-4-585-31020-4 C1014	
ご送付先ご住所（通信欄）	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

杜甫研究年報

日本杜甫学会「編」

「詩聖」杜甫。

その詩は、それ以前の詩の総括であるとともに、以後の中国詩の出発点でもある。
日本においては、五山の僧の崇敬、芭蕉の傾倒があり、明治以後も、中江兆民・島崎藤村・正岡子規を始め、知識人・国民の間で、その親愛の念は一貫して揺るがないものだった。漢文教育においても、杜甫の詩は教材の中で重要な位置を占めてきた。世界における杜甫への関心を見つめつつ、変転する時の中で無窮の未来に向かって杜甫研究を発展させ続ける一冊。

【最新号】第八号 目次

【論文】

銭起と杜甫——欠けた月の描写をめぐる——◎大橋賢一

『杜詩諺解』の構造とそこに見える解釈の位相 其三

——秋興五首第一首◎成澤勝

【訳注】

「越人献馴象賦」訳注◎後藤秋正

杜甫「唐故范陽太君盧氏墓誌」訳注◎富山敦史

【第八回日本杜甫学会大会シンポジウム概要】

「教材としての杜甫の詩」◎潮田央・高芝麻子・大橋賢一・三上英司

【研究概況及び文献収録】

杜甫関連の排印本について

——ここ数年の中国出版界における杜甫◎佐藤浩一

日本における杜甫研究集録(二〇二三)◎大橋賢一・加藤聡・紺野達也

日本杜甫学会会則・彙報・編集後記

とほけんきゅうねんぽう

定価 二、二〇〇円(税込)

〔本体価格二、〇〇〇円〕

ISBN978-4-585-39448-8 C3098

A5判・並製・九六頁

二〇二五年四月刊行

注文書

書名			部数		
杜甫研究年報 第八号					
日本杜甫学会〔編〕					
第七号			第五号		
A5判並製・96頁／2024年4月刊行 ISBN978-4-585-39447-1 C3098 定価 2,200 円／本体 2,000 円			A5判並製・96頁／2021年4月刊行 ISBN978-4-585-39445-7 C3098 定価 2,200 円／本体 2,000 円		
第四号			第二号		
A5判並製・104頁／2021年4月刊行 ISBN978-4-585-29444-0 C3098 定価 2,200 円／本体 2,000 円			A5判並製・88頁／2019年5月刊行 ISBN978-4-585-29442-9 C3098 定価 2,200 円／本体 2,000 円		
シリーズ			部数		
杜甫研究年報 〈定期購読〉			ご送付先住所		
日本杜甫学会〔編〕			部		
中国古典をどう読むか			部		
規範からの逸脱、規範への回帰			部		
下定雅弘〔著〕			部		

好評既刊

注文書

好評既刊

勉誠社

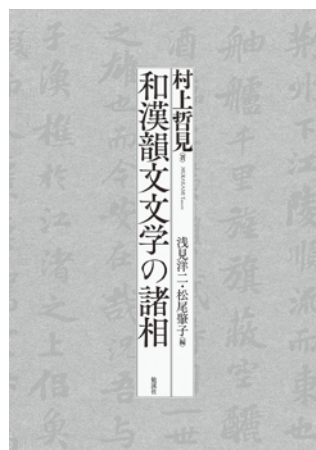
※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

村上哲見〈著〉

（むらかみ・てつみ）一九三〇年、中国大連に生まれる。奈良女子大学教授、東北大学教授などを歴任。東北大学名誉教授。文学博士（京都大学）。日本学士院賞・恩賜賞受賞、瑞宝中綬章受章。主な著書に『宋詞研究 唐五代北宋篇』（創文社、一九七六年）『宋詞研究 南宋篇』（創文社、二〇〇六年）『中国文人論（汲古書院一九九四年）』など、二〇二二年三月逝去。

和漢韻文文学の諸相



定価 13,200円・本体12,000円
A5判・上製カバー装・384頁
2025年2月刊行
ISBN978-4-585-39049-7 C3090

浅見洋二・松尾肇子〈編〉

（あさみ・ようじ）大阪大学大学院人文科学研究科教授。文学博士（京都大学）。著書に『中国宋代文学の圏域——草稿と言論統制』（研文出版、二〇一九年）、『陸游（新釈漢文大系詩人編12）』（明治書院、二〇二二年）など。
（まつお・はつこ）立命館大学白川静記念東洋文学文化研究所客員研究員。文学博士（奈良女子大学）。著書に『詞論の成立と発展』（東方書店、二〇〇八年）、『雅詞的受容』（萬巻樓、二〇一三年）など。

唐宋期を中心とする中国文学およびその影響下で生み出された日本漢文学について、多くの注目すべき研究成果を発表してきた村上哲見。これまで単行本未収録であった二十二編の論考を、
「中国詞論」「中国文人論」「日本漢詩論」に分類して収載。
幅広い知見と深い読解と考察により
研究を領導してきた泰斗による珠玉の論文集。

まえがき……浅見洋二

第一部 中国詞論

- 1 中国韻文史序論簡説
- 2 中国の韻文学諸様式の相互関係について
- 3 花間詞の声律
- 4 燭背・灯背ということ——読詞瑣記
- 5 李煜の詞におもふこと
- 6 南宋の文人たち——姜白石をめぐる
- 7 思惟の人と行動の人——朱子と辛稼軒の交遊
- 8 『詞律』の著者、万樹について
- 9 毛沢東主席の詞

第二部 中国文人論

- 10 白居易と杭州・蘇州
- 11 白居易の杭州赴任をめぐる
- 12 東坡詩札記——「鄭州西門」について
- 13 詩にみる蘇東坡の書論
- 14 蘇東坡と陸放翁
- 15 皇帝と文房趣味

第三部 日本漢詩論

- 16 『懷風藻』の韻文論的考察
 - 17 『三體詩』の抄物
 - 18 許六『和訓三體詩』をめぐる
 - 19 『唐詩選』と嵩山房——江戸時代漢籍出版の一側面
 - 20 江戸時代の漢籍出版
 - 21 江戸時代出版雑誌
 - 22 漢詩の魅力——夏目漱石と漢詩
- 【座談会】
先学を語る——村上哲見先生
三浦國雄・川合康三・松尾肇子
浅見洋二・萩原正樹・興膳宏
略歴／著作目録
あとがき……松尾肇子

書名

和漢韻文文学の諸相

村上哲見〈著〉浅見洋二・松尾肇子〈編〉

定価 13,200円・本体12,000円
A5判・上製カバー装・384頁
2025年2月刊行
ISBN978-4-585-39049-7 C3090

冊数

冊

ご送付先ご住所（通信欄）

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

五味文彦 著

(こみふみひこ) 東京大学・放送大学名誉教授、足利学校座主。専門は日本史。
著書に『院政期社会の研究』(山川出版社、一九八四年)、『文学で読む日本の歴史』(全五巻)(山川出版
社、二〇一〇年)、『武士論』(講談社、二〇一二年)、『料理の日本史』(勉誠社、二〇一四年)などがある。

茶の湯の文化史

ちやのゆのぶんかし

定価 2,640 円(本体 2,400 円)

四六判並製・272頁
ISBN978-4-585-32060-9 C0021
2025年3月刊行

BOOK CELLAR

ブックセラーでもご注文いただけます

鎌倉時代に行われた闘茶、室町期の会所や草庵での茶の楽しみ、
信長や秀吉が愛した茶道具、戦国期に千利休が大成した「わび茶」の継承…。
中国から伝来した茶は、時代により、様々なかたちで人々に親しまれてきた。
公家、武士、僧侶、そして庶民、
それぞれの身分の人々はどうのように茶を楽しんだのか。
茶の作法はいかにして生まれたのか？
日本人の心に深く寄り添う茶の湯の歴史を、
多数の図版とともに楽しく解説！



もくじ

口絵
はじめに

一 茶の文化

中国の茶／茶の伝来／茶の利用／『喫茶養生記』と明恵／
鎌倉中後期の茶／茶勝負と茶寄合／会所の飾り闘茶と／
『喫茶往来』の描く会所と茶の魅力

二 茶の湯

禅院の茶と服／銭茶売り／会所の茶と順茶／局茶／
数寄茶と料理の茶／茶呑みの儀礼と楽しみ／書院の茶と草庵の茶／
禁中の茶と珠光の茶／珠光の弟子と茶勝負の実際と／
佗数寄と『異制庭訓往来』／十四屋宗伍と松屋会記／
武野紹陽と四畳半茶席／円山梅雪と松永久秀／堺の茶人

三 茶の湯の到達点

織田信長の名物狩り／信長の茶湯政道／堺衆の茶の湯／
千利休の茶／島津の茶／秀吉の茶／北野の大茶会／利休と秀吉／
名護屋城での茶会と秀吉の師／山上宗二記と茶元の図／
利休の弟子／古田織部の茶／茶の焼物

四 茶の湯の楽しみ

『醒睡笑』の語る茶の笑話／京の町人と後水尾院の茶／宗旦の茶／
片桐石州と江戸の茶／織部の弟子、小堀遠州／金森宗和／上田宗箇の和風堂／
武家の茶／民間の茶／石州と武家茶道／諸藩の茶道役／
常修院宮と後西院の茶の湯／常子内親王と近衛家熙／都城島津家

五 茶の湯の世界の広がり

玉舟宗藩と茶の湯関係者／宗旦の子の三千家／茶書刊行と千家
女性への勧めの『刀自快』と茶の湯批判／千家の家元と七事式／
稽古と箱書／煎茶／三天茶の歴史／煎茶道／大名茶道の広がり／
松平不昧の茶の湯『茶器名物図彙』と『年々留』射和文庫

六 近代の茶の湯

井伊直弼の茶の湯／玄々斎の活動／文明開化と茶の湯／数寄者の茶／
女子教育と茶道人口の増大／数寄者の茶から知識人の茶へ／
海外進出と大茶会／戦後改革と家元制度

おわりに
参考文献

書名

茶の湯の文化史

五味文彦(著)

冊数

定価 2,640 円(本体 2,400 円)

四六判並製・272頁
2025年3月刊行
ISBN978-4-585-32060-9 C0021

冊

ご送付先ご住所(通信欄)

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

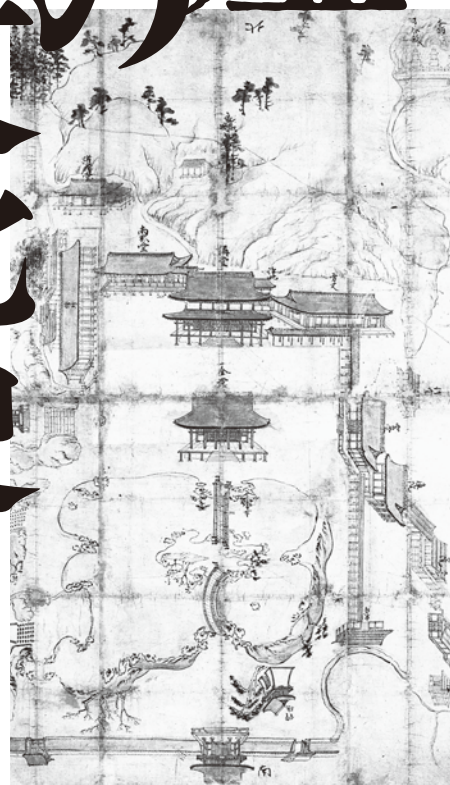
FAX●03-5215-9025

廃墟

木下華子
山本聡美
渡邊裕美子

編

の文化史



「廃墟」とは何か

近代産業遺産、廃業した遊園地やホテル、廃村や廃校など、現代において「廃墟」はたびたびブームとなり、人々の心を強く惹きつける。そしてひとたび、古典の世界に目を向ければ、古都や古代寺院の遺構、絵画・記録・物語や伝承などに遺された荒廃した町並みや建造物など、さまざまな廃墟表象が見いだせる。「廃墟」はなぜ描かれ、語り継がれたのか。そこにはどのようなイメージ、意図が込められていたのか。人々は「廃墟」に何を託したのか。

これまであまり考察されることのなかった、日本の廃墟表象を捉え直し、文学・美術・芸能など様々な視点から、古代以来連綿と人々が廃墟と共存した様相や、廃墟が文化の再生・胚胎を可能とする機能的な場であることを明らかにする。日本の歴史・文化史に立脚した廃墟をめぐる新たな視座を提供する挑戦。

編者略歴

木下華子◎東京大学大学院人文社会系研究科准教授。専門は日本文学。
山本聡美◎早稲田大学教授。専門は日本古代・中世絵画史(仏教説話画)。
渡邊裕美子◎立正大学文学部教授。専門は和歌文学・中世文学。

カラー口絵
巻頭言 わたしたちの廃墟論へ◎渡邊裕美子

第1部 廃墟論の射程

「廃墟」の創造性——歌枕・紀行文・『方丈記』◎木下華子
『うつほ物語』の廃墟的な場——三条京極の俊隆邸と蔵の意義◎陣野英則
廃墟に花を咲かせる——『忍夜恋曲者』の方法◎矢内賢二
西洋美術史における廃墟表象
人はなぜ廃墟に惹きつけられるのか?◎平泉千枝

【コラム】前近代中国における廃墟イメージ——詠碑図・看碑図・訪碑図など◎板倉聖哲

言葉としての「廃墟」——戦後文学の時空◎藤田佑

第2部 廃墟の時空

廃墟と霊場——闇から現れるものたち◎佐藤弘夫
廃墟と詠歌——遍照寺をめぐる◎渡邊裕美子
夢幻能と廃墟の表象

世阿弥作《融》における河原院描写に注目して◎山中玲子
【コラム】生きた廃墟としての朽木——風景・記憶・木の精◎ハルオシラネ
廃墟に棲まう女たち——朽ちてゆく建築と身体◎山本聡美
廃墟になじめない旅人——永井荷風「祭の夜がたり」◎多田蔵人

【コラム】韓国文学における廃墟◎嚴仁卿

第3部 廃墟と生きる

【コラム】荒れたる都◎三浦佑之

承久の乱後の京都と「承久三、四年日次記」◎長村祥知
廃墟の中の即位礼——中世の即位図からみえるもの◎久水俊和
五山文学における廃墟の表象◎堀川貴司
戦争画家たち——それぞれの「敗戦」◎河田明久
廃墟としての金沢文庫——特別展「廃墟とイメージ」の記録◎梅沢恵

あとがき◎木下華子

定価 3,300円・本体3,000円
A5判並製カバー装・288頁
2024年10月刊行
ISBN978-4-585-32543-7 C1391
〈アジア遊学 No.297〉

書名

冊数

廃墟の文化史

木下華子・山本聡美・渡邊裕美子(編)

定価 3,300円・本体3,000円
A5判並製カバー装・288頁
2024年10月刊行
ISBN978-4-585-32543-7 C1391
〈アジア遊学 No.297〉

冊

ご送付先ご住所(通信欄)

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX◎03-5215-9025